

For Competitors 競技ダンスを志す方へ

英国留学する前に 3.

前回、渡英留学する前に「英語」と「基本」を身に付ける様に、と書きました。当然、出国前に渡英経験のある方から、[フラット]や[コーチャー]の情報は入手済みでありましょう。

誰でも良いコーチャー（元チャンピオン級の）にレッスンを受けたいと思っているかも知れませんが、当然、そういう方は忙しく、思う様にレッスンが取れなかったり、手抜き、とは言いませんが最初から自分にあった教え方をしてくれるとは言いきれません。それよりも、少し下の評判の良い親切で面倒見の良いコーチャーを探すことをお勧め致します。（これも受ける人によって異なることは当然です）

ロンドン（ローマであっても）に行ってから、現地の方と仲良くなり、多くの人の意見を参考に[メイン・コーチャー]を決めても遅くありません。（滞在の短い人は別！）

相手も人間ですから[肌の合う人、合わない人]も居ますし、自分に欠けている欠点を直してくれる人、同じことであっても言われ方やその説明方法で分かり易い人とそうでない人もいます。自分には何が最も必要であるか、を知ることも重要です。

但し、一遍に多くのコーチャーに教わることは絶対に止めなければなりません。全てのコーチャーが本当に良い事を言っている、同時に幾つもの事を身に付ける事は出来ません。英国人がよく「日本の選手は、お金と時間を浪費している」(waste of money, waste of time.)と言いますが、レッスンを沢山取れば上手くなる、と思ったならば大きな間違いです。かえって自分の踊りを悪くします。

以前、「今日はニーナ・ハントのグループで踊ろうか、ウォルター・レアードのグループで踊ろうか」とパートナーと相談していた選手がいました。

ニーナのルーティンをレアードの前で踊れば、全て直されるし、そのルーティンをニーナの前で踊ればこれもまた、全て直されるのです。

私も、スクリブナーとチャールス・シーボルトの二人のスタンダードのコーチャーで余りにも異なることを求められて悩んだ時期がありました。その時、アントニー・ハーレー（アンソニーではない）に話したところ「自分も同様の悩みがあったが、同じ系統のコーチャーに付くか、タンゴはこの人、フォックストロットはこちらの人、の様にしないと自分の踊りに迷いが出てしまうので注意が必要だ。」とのアドバイスをしてくれたことを思い出します。それも、半年や1年以上もいる人にとってであります。

何れにしる、現地の選手（英国ならば英国人）に親しくなれる人を見つけ、その人のアドバイスをしっかりと有効に生かすことが自分の踊りを高める為に重要と思います。